

社協 くちみなみ

第52号

編集発行

久地南地区社会福祉協議会

TEL 837-3737

安佐北区安佐町くすの木台52-2

印刷/安佐印刷有限会社

新年のご挨拶

久地南地区社会福祉協議会

会長 折田 康人

皆さまには令和8年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は「久地南地区社会福祉協議会」に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、4月に地区社協活動拠点活性化支援事業の開設日を増やし、毎週 月・木・金・日(第1・第3)を久地南集会所で開設しました。心配ごとや困りごとについて相談してみたいと思われる方は遠慮なくお越しください。お待ちしております。

秋には、久地南小学校の計画委員会の皆さんが「OMOIYARIいっぱい！ありがとう いっぱい！ちゃんと伝えよう『ありがとう』」というスローガンを考え、10月24日・25日でOMOIYARI勉強会・講演会・音楽会を開催しました。

勉強会は、広島記念病院の矢野雷太先生による「家族ががんになる前に知っておきたいこと」と題してのご講演。講演会は「思いやりに出会う時間～未来に手渡すやさしさのリレー」と題して、トリニティカレッジの吉岡俊昭先生に、よっちゃんのお話をしていただき、お話に感動して涙ぐむ方もおられるほど、OMOIYARI講演会にふさわしい内容でした。

音楽会は、歌手の藤田恵美さん、木山裕策さんと一緒に小学生も、安佐幼稚園の子供たちも、地域の方々も、手話をしながらOMOIYARIの歌を歌い、「OMOIYARIいっぱい！ありがとう いっぱい！」についてみんなで考える機会になりました。また昨年は「被爆80年」ということで、「アオギ」の歌を1～3年生と、久地保育園の皆さんで合唱し、平和のありがたさを皆で実感したところです。

当日は、松井広島市長をはじめ、広島市、安佐北区役所、安佐北区社会福祉協議会のみなさまにご来校いただきました。ご多用の中、ありがとうございます。松井市長からは、LMOの活動として、学校と地域と一緒に活動して、まちづくりをしていることを評価していただきました。

本年は、孤独死をなくすために、ひとり暮らしの方々の見守り活動の仕組みを再構築して、「OMOIYARI みんなで助け合う 久地南」の実現に向け、社会福祉活動を推進していきたいと考えています。本年も「久地南地区社会福祉協議会」の活動に、ご理解とご協力をお願いします。

最後になりますが、久地南地区の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



OMOIYARIいっぱい！ありがとういっぱい！

昨年10月24日・25日に、久地南小学校で、OMOIYARIプロジェクト「OMOIYARIいっぱい！ありがとういっぱい！～ちゃんと伝えよう「ありがとう」～」の取り組みが開催されました。1日目は「OMOIYARI勉強会」「OMOIYARI講演・音楽会」2日目は「OMOIYARI勉強会」「OMOIYARI音楽会」の構成で、昨年にも増して体育館が満員になるほどの大盛況でした。

そこで、今年も、久地南小学校の久保田校長先生にインタビューに答えていただきました。

ー今年も大盛況でしたね。今年の取り組みは、昨年度の「OMOIYARI音楽会」からどのように発展させたのですか。

昨年「OMOIYARI音楽会」をやって、学校の方でも地域のみなさんの方でも、これをずっと継続する行事にしたいという思いや感想がありました。たとえば、今回「ありがとうトロフィー」を五十六製作所の後藤さんが指導してくださったんですけど、細木陽平さんの絵画展に来てもらったのがきっかけになって、後藤さんの方からトロフィーの提案をいただいたんですよ。

ーその「続けたい」という要望をどう形にしていっていったんですか。

いろいろあるのですが、この行事自体はOMOIYARIについて考えるということからブレることなく行いたい、そしてその発信源はぜひ子供たちにしたい、ということで、児童会で「OMOIYARIプロジェクトチーム」略して「OPT」を立ち上げました。今回は9人で。

ー「OPT」ってカッコいいですね。

校長室をOPTルームにして、集まってテーマの「OMOIYARIいっぱい！ありがとういっぱい！」も子供たちが考えて、サブテーマも。それをキーワードにしようということでやっています。

ー今回松井市長が見に来られて、この取り組みを喜んでおられたと聞きました。

子供たち発信だけど、LMOとか地域みんなであたたかい雰囲気のある町にしようとしているというのが評価されたようです。前からあったお祭りなどの行事をLMOに切り替えるのはよくある話ですが、久地南は新しいことをやっ

ているというのがポイントです。

ー去年はどちらかというと、小学校主体で、地域はちょっとお手伝いしました、という感じだったのですが、今年は違いましたね。

去年は全く手探り状態で。みんなも「何が始まったん？」という感じで、とりあえずなんとかやりきって良かったという感想でした。今年は構想段階で、この行事の理想は、学校と地域が一丸となって創り上げていくことだったので、例えば、高齢者の方に学校に来ていただいて、歌に合わせて手話をさせていただくような参加型の行事にしたいという思いでした。

ー心和会の皆さんも前で歌に合わせて手話をされて、驚きました。

皆さん、最初は「なかなか覚えられない」という感じでしたが、前向きに練習していただいて、「ステージに上がってもらえませんか」というお願いも快諾していただき、本番もとても素敵な時間になりました。

それからハーモニカの大久保さんも。歌につけるオブリガードの練習も何度もしていただいてだいぶつながりができましたね。

ー子供たちの歌も増えましたよね。

そう。「OMOIYARIのうた」だけでなく、「アオギリのうた」と「ありがとうの花」も参加しました。もっともっと子供たちと地域の方が参加できたらいいかな。

ー今回、「OMOIYARIのうた」の藤田恵美さん以外に、木山裕策さんも呼ばれたいきさつを教えてください。

今回はPTA記念行事をやろうという企画があって、それならLMOとの連携の「OMOIYARI音



楽会と合わせてやったらいいんじゃないかと考えました。それで、藤田恵美さんは木山裕策さんとラジオなどで交流があるし、今回来ていただいた共通のピアニストがおられて、それともう一つは、木山さんががんを経験して、そのことが歌手になる大きなきっかけになったということを知っています。

今年もLMOの方で「がん教育」をやるということで、「OMOIYARI音楽会」と合わせたいんじゃないかと思ったんです。

—その「がん教育」の話ですが、普通、医師である矢野雷太先生だけの話になると思うのですが、それを乗り越えられた患者さんも一緒に話をされた、そして最後にその人が校長先生の奥様だった！というので、子供たちもめちゃくちゃ驚いたんじゃないですか？私も驚きましたが。

実は矢野先生が、5年前にうちの妻ががんになった時の主治医なんですよ。

妻はそのころ、仕事で忙しくて検診に行けず、ずいぶんステージが進んだ状態で、がんが見つかりました。それはそれはびっくりして、手術をして治療をしながら働いていたんですが、3年たったくらいに、妻が校長をしていた早稲田小学校で、矢野先生にがん教育をしていただきました。それがきっかけで、公民館などでがん教育をする時に、「医師と患者」というセットで呼ばれるようになったんです。

—文部科学省でも勧めていますよね。

でもなかなか進まない。分かってもらうためには、医師と患者のセットで話をするのが理想的だということで、今回来てもらいました。身近に感じてもらえたら、と。

—奥様も学校関係者だから「子供たちのために」というところもありますよね。

早稲田小学校でも「実は校長先生もがんだったんよ」と言ったら、子供たちは驚いたそうです。でも、ある児童が雨の日に「校長先生はがん治療のせいで、冷たかったら手がピリッとするから」と、わざわざ書類をハンカチで拭いて渡してくれたという話を聞いて、まさに思いやりだと。

今では、がんは検診で早く見つければ治る病気になったし、働きながら治すことができるということを知ってほしいです。

—2日目のOMOIYARI勉強会の吉岡さんのお話もすごいインパクトでしたね。

高齢者の多い久地南で、子供たちの家族にも認知症になる方がおられると思います。おしいちゃん、おばあちゃんは、人が変わったんじゃないかと、認知症だからそういう行動をとっているんだということを知ってほしい。お話の中に「OMOIYARI」の要素があるから、吉岡さんに来ていただきました。

—最後に、これからの展望をお聞かせください。

今回2年目。この行事の趣旨への理解も進んできているから、続けていくべきだと考えていますが、続けるためには工夫が必要となります。「毎年イベントをする」という器だけだったら、担当者が悩むだけです。

—そうになったら本質からズレていきますもんね。

その通り。絶対にブレないようにしないと。とにかく「OMOIYARI音楽会」がすべての出発点なんです。OPTで子供たちが音頭をとって企画、実行する。それを地域がバックアップするというのが一番いいんじゃないかと思っています。

「子は宝」というけれど、地域で子供たちを大事にするという方向に向いてほしいし、子供たちはそれに応えていってほしいです。

—今年子供たちの成長をさらに感じました。

子供は失敗もするし、できないこともあるけど、大人も見本を見せたり、良いところを見つけて褒めたりして変わっていかないといけない。もっと関わりあって、お互いにOMOIYARIを持って。そういう久地南学区になっていったらいいと私は思っています。

—お忙しい中、どうもありがとうございました。

OMOIYARI勉強会・子供たちの感想から

矢野雷太先生へ

がんになったらどうすればいいのか、家族ががんになったらどうより
そばいいのかを教えてください、ありがとうございました。

がんは、はやいうちから見つけるとよいということを知りました。ママ
やパパも、ちゃんとけんしんに行ってもらいたいです。

がんのお話、ありがとうございました。ためになりました。

【6年生】



吉岡俊昭先生へ

わたしは、お花の名前が全てわかるおばあちゃんと、そのおばあちゃんをおん
ぶしている吉岡先生の写真と、お話がとてもすてきな、と思いました。

体の何かが悪いときは、自分自身がその悪くなっているところになればいい
というお話で「たしかに！」と思いました。

かなちゃんのお話も、感動して、うるっときました。かなちゃんが、おばあちゃん
の手をとって、いっしょに帰るところが、かなちゃん1年生なのにすごい！と思い
ました。

ふだんは泣かないお友達も泣いていたので、吉岡先生のお話がどれだけすご
いかがわかりました。全てのお話を聞いて、もっと家族を大切に、大事にしよう
と思いました。今回は本当にありがとうございました。【5年生】

吉岡俊昭先生へ

わたしは、よっちゃんのお話を聞いて、こう思いました。おばあ
ちゃんにはいつもお世話になっているから、次はわたしがおばあ
ちゃんをたすけようと思いました。なぜそう思ったのかというと、
おばあちゃんはいつか死んでしまうんだということが分かったから
です。

わたしの一番心にのこったことは、おばあちゃんがなにをしてい
ても、よっちゃんにぜったいにおこらないというところです。

そこがすごく心にのこって、心があたたまってきました。わた
しも、よっちゃんみたいなやさしい人になりたいなと思いました。
わたしは、よっちゃんが話してくれたことはぜったいにわすれたり
しません。かなちゃんのお話などを教えてくれてありがとうございました。
【4年生】



安佐医師会病院 土手慶五先生のお話から

先日、境原や小野原上の集会所に安佐医師会病院の土手慶五先生をお招きして、安佐医師会病院の使い方や、高齢者に気をつけてほしいこと、心がけてほしいことなどのお話をさせていただきました。

社会福祉協議会では、これからもそういった機会を増やそうと考えています。先生のパワーポイントの一部を紹介しますのでぜひ参加して直接お話を聞いてみてください。

2月16日は14時から
久地南集会所で！



安佐医師会病院の利用方法

- ・とりあえず相談（無料）、受診（急ぐ時）←紹介状はいらない。
- 許可を得て安佐市民病院のカルテ参照、名医への紹介状作成、かかりつけ医との連携、薬の整理、介護保険の申請、包括への連絡などなど、社会的処方連携して実施します。

退院後の生活は誰に頼ればいいのか？

- ・60日間入院できる安佐医師会病院（地域包括ケア病棟）
- ・「すぐには帰れん、いきなり家に帰って大丈夫かな？」という人のために
- ・患者の「家に帰る」を実現し、家族との意思決定支援をする。
- ・かかりつけ医、訪問看護、地域包括支援センターなど、生活を支える方との協働



安佐医師会病院主催【よろず相談室】

- ・**無料で相談！**（体の不調、ストレスや睡眠の悩み、食事や運動に関するアドバイス、病気の予防について、物忘れなど）
- ・ご本人はもちろん、ご家族についても、土手病院長をはじめ、安佐医師会病院の医師が相談を受け付けます！（必ずお薬手帳をご持参ください。）

- ・毎週水曜日の**13:00～15:00開催**
- ・申し込み方法は電話**(082-555-2700)**で、月曜日～金曜日**(9:00～17:30)**受け付けています。
- ・場所：安佐医師会病院 外来（受付カウンターへ）

レスパイト入院

- ・家で介護している人が「疲れた」「入院した」「旅行に行きたい」
- ・家で介護されている人が、施設やショートステイを利用したがない。
- ・家で介護されている人の医学的管理が大変で、施設で受け入れられない。



- レスパイト入院（料金は一泊35000円の1～2割負担だから、10日間でも35000円程度の目安で）
- ・安佐医師会病院「地域連携室」に電話**(082-555-2956)**またはFAX**(082-815-2371)**で相談するところから。相談時間は月～金の**8:30～17:00**



赤い羽根共同募金のご協力に感謝します



赤い羽根共同募金につきましては、例年格別のご理解とご協力を賜りありがとうございます。おかげさまで令和7年度も目標を達成できました。

これもひとえに各自治会長様をはじめ、法人・個人と多くの方々のご支援のおかげと厚くお礼申し上げます。

共同募金は障がい者施設・社会福祉施設の活動支援や、当地区社会福祉協議会の福祉活動（見守り配食活動・サロン助成・広報誌発行など）の原資になっています。さらに近年では災害時の備えとしても使われています。

◎令和7年度の募金実績は次の通りです。

◎個人情報保護等の観点から、個人の募金についてはお名前の掲載を控えます。ご協力ありがとうございました。



◎戸別募金（敬称略、単位、円） 484,700 円

久地境原自治会	19,200	幸の神自治会	5,200	小野原上自治会	8,000
魚切自治会	14,000	南が丘団地自治会	101,200	瀬戸内ニューマツ自治会	130,000
くすの木台自治会	207,100				

◎法人・個人募金（順不同、敬称略） 108,693 円

田島運送(有)久地営業所	クラハシ美容室	(有)アサ産業	なかたストアー
日野原エンジニアリング	三ツ平工業(株)	広島シンター(株)	(有)アイスリー製作所
(株)ミズト	日本ホームカス協業組合	(有)笹野石材工業所	(有)宮長運送
(株)不二土木工業	(有)ティー設備	向田オート	久地南地区社協募金箱
			個人募金

◎久地南地区募金計 593,393 円（12月31日現在）

表彰関係

【令和7年度】

- | | | |
|---------------------------------|-----------------------|------------|
| 1. 広島県社会福祉協議会会長表彰 | 石橋政道 | 令和7年11月14日 |
| 2. 安佐北区社会福祉協議会会長表彰
（地域福祉功労者） | 折田康人
児玉久美子
堀川春代 | 令和7年11月26日 |

【令和6年度】

※昨年度未掲載失礼いたしました。

- | | | |
|-------------------|-------|------------|
| 3. 広島市社会福祉協議会会長表彰 | 程吉田鶴子 | 令和6年11月29日 |
|-------------------|-------|------------|

車椅子を貸してほしい!



久地南集会所では、車いすの貸し出しをしています。久地南集会所の拠点スタッフ在中時に相談してください。電話でのお問い合わせは、その時間帯に837-3737まで。

愛の灯 まごころに感謝します ☆寄付 匿名 1件

お寄せいただいた善意は、地域福祉のため有効に活用させていただきます。

ご寄付いただける方は、お近くの自治会長または社協役員までご連絡ください。